

令和元年11月1日

法教育推進協議会教材作成部会委員 野 畑 毅
(京都府立菟道高等学校教諭)

法教育授業実践報告

(高校生向け法教育教材－ルールづくり－

指導案「大学入試のアファーマティブ・アクションについて考えよう」)

1 実施日時

令和元年10月16日(水) 午前11時45分～午後零時35分(第5時限)

2 実施校等

(1) 実施校

京都府立菟道高等学校

(2) 学年

第3学年

(3) 教科等

公民科「倫理」

(4) 指導者

同校教諭 野 畑 毅

3 単元等

(1) 単元(学習指導要領における位置付け)

現代の諸課題と倫理

学習指導要領の位置付け

公民科「倫理」

(2) 単元目標

①現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深めさせ、人間としての在り方
生き方について自覚を深める。

②倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかか
わる課題として考えを深める。

(3) 指導計画

1 限目 大学入試のアファーマティブ・アクションについて考える(本時)

2 限目 社会と個人の調和 功利主義

3 限目 正義と福祉 ロールズ セン

4 限目 社会の中の人間 リベラリズム コミュニタリアニズム

4 本時

(1) 目標

現代に生きる人間が直面する諸課題のひとつである平等に関わる問題を取り上げ考察し、社会情勢の変化や新たに生じた問題に対応するため、主体的にルールを作成したり見直したり、利用できることについての理解を深める。

作成したルールを評価する観点（手段の相当性，明確性，平等性）について理解させ、他者と共によりよく生きていくことについて考察を深める。

(2) 展開

進行 (所要)	内容	指導上の留意点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート【別紙1】を配布し、トドウ大学の入試におけるカメ枠の制度導入について、ホウリス国でのカメ種族とウサギ種族の経済的・社会的な格差を歴史的経緯と現状から、理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が黙読または教員が音読する。
展開① (10分)	<p>【個人ワーク】問1ホウリス大学のカメ枠の導入は公正だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学入試において、ウサギとカメで異なった取扱いをすることが公正かどうか、(カメ枠の導入が公正かどうか)、その理由も含めて検討し、ワークシートに記入する。 検討後、必要に応じて、生徒がいずれを選択したか、挙手で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「公正だろうか」という問いを「納得できるか」と言い換えて考えさせる。あまり時間をとらずに判断させ、その理由を簡潔にまとめさせる。 答えのない問題であることから、「正解は何か」を意識して答えなくても良いことを伝える。 意見の中から「平等」「機会の均等」に関するワードがあれば強調する。 <p>生徒の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 公正 現状が平等ではないのだから必要 カメは授業料が払えない カメの環境が今よりも良くなるから

		<ul style="list-style-type: none"> 不正 平等ではない 入試は公平であるべき 入試の成績（個人の努力）が評価されない ウサギのチャンスが減る
展開② (10分)	<p>【個人ワーク】問2 トドウ大学のカメ枠導入の理由を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料【別紙2】を配布し、資料を参考にトドウ大学のカメ枠導入の理由を考える。 <p>【個人ワーク】問3 トドウ大学のカメ枠導入の目的と手段が合理的か考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学の社会的使命や大学の独自性を考慮し、目的と手段が合理的であるかどうか考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> カメ・ウサギの両方の立場を客観的に考察するため、トドウ大学の立場から考えさせる。 目的と手段が合理的であるかどうかの判断は、それぞれ異なってよいことを伝える。 絶対的平等と相対的平等について説明し、2つの平等の観点から問2や問3で考えた意見と照らし合わせて考えを深めさせる。
展開③ (15分)	<p>【グループワーク】トドウ大学の公正な入試制度を班で考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自で再検討を行い、その理由をワークシートに記入する。 グループ(5名)のうち3名が他のグループの説明を聞きに回り残り2名は自らの班の制度やその理由について説明を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えを深めるための論点を提示し議論を深めさせる(教員による考えるための論点を提示した後のディスカッション「深く考えるために」を参照)。 制度を考えることが難しくワークシートへの記入が難しい場合は、どのような考えを重視しようと思うか、重視した価値と他の価値がどう対立していて制度を考えることが難しいのか等を記入させる。 どのような制度が良いかを考えるために、手段の相当性、明確性、平等性について説明し、3つの観点として提示する。

		<ul style="list-style-type: none"> 相手の意見を聞くだけではなく、その根拠や疑問点等を質問するなどして、相手の意見に対して応答するよう意識させる。
<p>まとめ (10分)</p>	<p>【個人ワーク】グループワークを踏まえ、あなたが公正だと考える提案を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループワークや他グループの意見をふまえ、平等の考え方、制度・ルールを考えるための3観点をうい考察を深める。 アファーマティブ・アクションについて簡潔に説明し、アメリカにおける大学入試の制度の一例や判決を紹介し、興味・関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案（ルール）の内容を評価する以下の2観点について、再度強調する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 手段の相当性 何を目的とした提案か、目的は合理的なものか、目的のために役に立つ提案か、役に立つとしても手段として適切（合理的）か。 ② 明確性 意味がはっきりと分かるか、複数の解釈ができないか。

(3) 実践報告（成果と課題など）

（※以下「アンケートまとめ（一部抜粋）」及び「生徒感想」欄を参照願います。）

授業後にアンケートを実施したところ（有効回答数 45）、「内容に対する意欲・関心は高まったか」という質問における肯定的な解答は9割であった。当校は上級学校への進学を希望する生徒が多いところ、実施学年が第3学年であるため内容に対する意欲・関心は高かったものと考えられる。大学への進学より専門学校の進学又は就職をする生徒が多い学校では、それぞれの学校の実情に応じた内容の変更が必要である。

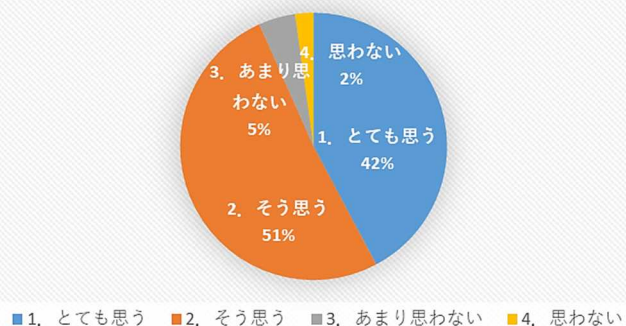
また、「学習内容が実生活に役に立つか」という質問については、9割の生徒が肯定的な解答であった。自由筆記の感想を要約すると、「自らの意見が他者の意見を受けて変わっていくことが面白い」「他者の意見を聞くのが面白い」という感想が多くみられた。生徒は、意見を共有することで理解を深めていくことに有用性を感じていると考えられる。課題として、ルールや制度について考察する評価する観点である、手段の相当性、明確性を、授業において十分に強調できていなかったため、自由筆記の感想には、ほとんど記述が見られなかった。

一方、「内容の難易度」については約5割の生徒が適当と解答する一方で、約4割の生徒が難しいと解答している。難しいと感じた生徒のワークシートや感想では、資料の読解、考慮・配慮すべき事項が多岐にわたるため議論の幅が広がり、何を議論すればよいのかわからなくなるという意見が多くみられた。したがって、

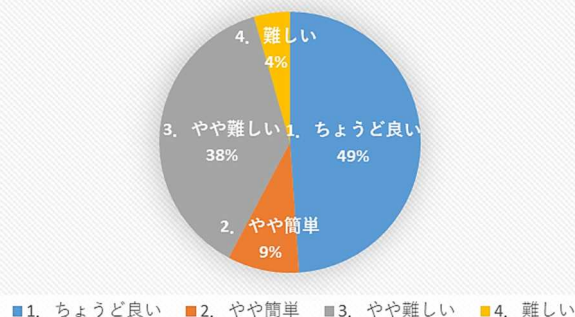
論点を明確にする必要があった。「カメの状況を改善するためにはどのような大学入試の方法やその他の制度を取り入れるべきか」、「ウサギとカメの個の努力をどう評価すべきか」などの観点に絞って議論させ、提案について考察することが必要であった。

アンケートまとめ（一部抜粋）

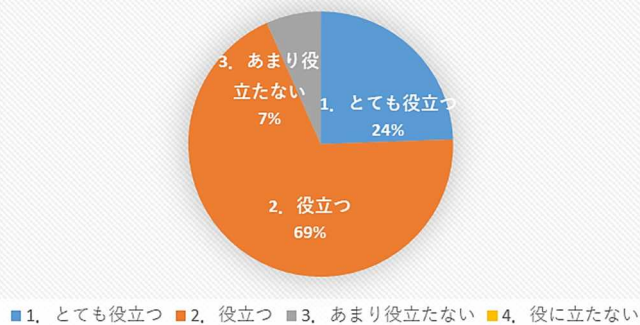
質問2 意欲・関心の高まり



質問3 難易度



質問5 学習内容は役に立つか



生徒感想

今日話し合った問題が、もし普段のテレビで流れていたら「こういう制度ができました」くらいで、そうなんやと思って終わるけど、1つの問題を真面目に真剣に考えてみたら、意外と自分も考えを持っていることがわかった。

法学部に進学したいと考えているので、重なるところがあり面白かった。様々な立場や条件によって、自分の見方が変わっていくのが面白かった。もし自分の希望する大学で、このような制度があったらと思うと考える良い機会になった。

全ての人ニーズに応えることができれば一番良いが、それは難しいので、どういう方針でやっていくのかを決めるということは難しいことだなと思った。

すぐに格差が無くなるわけではないけれど、小さい頃からのカメとウサギの交流が大事であって、将来の満足を考えた制度の必要性を感じたけれど、考えるのは難しいと思った。

グループワークを通じて出された意見を組み合わせると、現代社会に近い制度が出来あがるんだと思った。私たちの生きる社会は完璧ではないが、一人一人の平等を考えて制度が作られているのだなと思った。

格差をうめるためのルールが、新たな格差を生んでしまうこともあることに、もやもやしました。グループ学習で、ウサギ枠・カメ枠を同数に設定して、実力主義で選抜することに納得しましたが、グループの中には納得していない人もいたかもしれません。問題を解決したつもりが、新たな問題を生むこともあると考えると、果てしない問題だなと思いました。

経済的に苦しい生活をしている人たちに援助を行うことは非常に大切なことだと思うし、実際にも行われている。けれど、今回の合格者の50%をカメ枠とするというのは、経済的に比較的カメよりも良い生活を送るウサギにも影響がでてしまうと思う。ウサギの中にも、大学進学のために熱心に勉強してきた者もいるため、カメ枠のせいで合格するかもしれないウサギが合格できないのは納得できない。かといって、カメとウサギの経済格差もあるのは事実だから、大学入試以前の問題だと思う。

最初は簡単にパーセンテージを考えれば良いと思っていただけで、考えていくと難しいと思った。カメ枠を50%にすることに賛成だったけれど、グループで話し合うと考えが変わった。個人の平等を大事にすべきか、国全体の状況を改善すべきかという選択はとても難しかった。日本では、社会的に弱い立場にある人への優遇措置はあまり見られないが、考えないといけないと思った。

グループの議論では、ウサギとカメをそれぞれ配慮することがとても難しかったです。個々の実力を重視して、得点順に合格を決めるのが良いけれど、カメに配慮するなら25%ずつにして、残りの50%は枠なしの実力勝負であれば良いかなと思います。また、入学前と入学後の、カメのための奨学金をつくるのも良いんじゃないかなと思いました。

最初は「ウサギにとって不利になるからカメ枠は公正じゃない」というのが私の意見でしたが、グループで意見を出し合った結果は「テストの結果を重視しカメ・ウサギを同じ基準で上位から合格させ、入学後に奨学金制度を導入する」ことになりました。でも、これで問題が解決ではないと思うし、もっと他のグループの意見はどうか気になりました。

最初は、差別を無くしていくためにカメ枠の50%に賛成していましたが、カメの現状を資料から考えると大学の授業料が高いたろうし、ウサギの不満は高まるだろうと考えると、あまり良い案ではないのかなと思いました。ウサギ・カメ枠関係なく学力

のみで判断したり，奨学金や学費免除の制度を作ったりするなど，両方の立場から考えることが必要だと思いました。学力だけではない，新しい試験を創設してカメの入学方法を増やすという案も出て面白かったです。

(4) 参考資料（使用教材・資料，授業の様子・板書など）

ア 配布資料

別紙1・2のとおり。

イ 授業の様子 班におけるディスカッションの一例

トドウ大学入試カメ枠50%の提案についての第1印象のディスカッション

A：公正ではないかな，実力主義で良いかな。

B：種族間の格差解消も大事やけど，実力も大事かなあって，どっちかわからへん。

B：目的として種族間格差の解消は良いと思うけど，もともとウサギは80%で多かったから，なんで？って反対が起こると思う。あと，一定期間ってあったけど好印象じゃない，また戻るんやと思うと余計にウサギの反発は大きいんちゃうかなと思う。上手く言えへんけど。

A：確かにウサギの反感を買いそう。

B：それに，経済格差の解消じゃなくて，ウサギとカメの関係性って考えると，あんまり良くなるんじゃないかなあって…。逆にウサギが離れていくんとちゃうかなあって…。

A：あー，確かにそれはあるかも。

C：うちのグループには賛成派（トドウ大学のカメ枠50%の提案）はおらん？

D：うちも実力主義やし…。



QUESTION.1
トドウ大学のカメ枠導入は公正か

公正だ (納得できる)	公正ではない (納得できない)
9	11

どんな提案が公正だろうか？についてのディスカッション

A：でも，このままやったら，格差は縮まらへんよなあ。

C：大学って，格差の是正をやらなあかんところかなあ。

D：そうそうそう，大学だけがやることではないよなあ。

B：大学入試って，得点で決める実力主義なところもあるやろ。

A：高校の時点で差が開いてるやん。小学校くらいから取り組まなあかんのかなあ。高校・大学だけで解消するんって厳しくない？

教員による考えるための論点を提示した後のディスカッション

D：めっちゃ、難しいやん。

C：学力あるのに、大学行けへんていうのは、カメとウサギでも関係ないと思
うし、なんか援助する方法はあるよなあ。今でいう奨学金みたいな。

A：ああ、そやなあ。

C：これぐらいしか、思いつかへんわ。

D：なんか、全部みるっていうのは？内申みたいな感じで。

A：内面重視するみたいなやつ？それ
やったら、面接と小論文で決めてし
まうみたいな？

D：そうそう、学力だけで判断するわ
けちゃうようにすんねん。それで、
その人を合格させるみたいな。そう
いう入試を取り入れたみたいにする
のはありちゃうかな。

C：その入試の細かいことは、教えへ
んってしたらええんちゃう。何を評価してるかわからんのやったら、カメ枠
50%にせんでええし。

B：受験生にバレたらやばない？

C：そやなあ、あかんか。

A：これ、どうやってまとめる？難しくない？わかるように書かなあかんねん
やろ。

B：学力重視のテストもあるけど、個々の・・・

A：事情？

C：能力？

B：長けた能力も…。

A：…考慮して。

B：考慮した入試制度を取り入れる。

A：でき、これって、結局は実力主義ってこと？

B：うーん、でもなんもない人（考慮する事柄のないカメとウサギ）は無理や
な。そしたら、ウサギもカメもおんなじってことになるな。

A：カメは実力で這い上がってこいってこと？

D：でも、ウサギの持つる学力とカメの持つる学力っておんなじなんちゃ
うの？能力おんなじやんな？

B：能力が同じカメとウサギやったら実力主義のほうが公正やし、ちょっと学
力の低いカメやったら、カメの経済的な環境が良くなって学力が低くてもい
けちゃう（入学することができる）入試の制度にするみたいな。

深く考えるために

- ・ウサギ種族の過去の不正を、現在の大学入試でカメに補償することは公正か
- ・大学入試における個人の結果の重視か、社会的・経済的に弱い立場にあるカメの優遇か
- ・カメの優遇が、ウサギへの逆差別とならないか
(ウサギの待遇・利益・公平感が損なわれないか)
- ・生まれた種族や育った環境などを、個人の責任としてよいか
- ・富裕なカメと経済的に困窮するウサギのどちらを優遇すべきか

A : あー, なるほどー。

C : でもさ, ウサギはあれやん。経済的に恵まれてるやん, でもカメはそうちゃうやん。そうやし, 学費を払われへんから受験せえへんってなったらあかんし, 大学入学したら使える奨学金みたいなんがあったら, ええんちゃう?

A : あー, そやなー。

B : なんや, 今あるような制度みたいやなこれ, 考えてたら。

D : ほんまやな。

各班の意見

QUESTION.3③

トドウ大学として公正な提案を考えよう

提案

1班 テストは平等に受験に実力、奨学金制度

2班 カメかウサギか書かずにテスト、上位からとる

3班 学力だけでなく、個々の長けた能力を考慮する入試にする

4班 カメウサギも経済的に厳しいものは奨学金を提供 学力重視

5班 50%でとるが公表しない 批判がある

- 5 参考：新学習指導要領における位置付け
新学習指導要領 公民科「公共」

A 公共の扉

(3) 公共的な空間における基本的原理

自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

- (イ) 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解すること。

上記内容項目の学習として実施が可能と考える。また、功利主義や正義と福祉に関わる学習項目としての実施も可能であろう。



ワークシート1



3年 組 番 氏名

班番号

【事例】

ホウリス国は、長らくウサギ国の植民地であり、原住民であるカメは、ウサギから迫害を受け、経済的に恵まれない生活を送っていた。その後、ホウリス国は今から約50年前に独立し、ホウリス国に残ったウサギと原住民のカメは一緒に暮らし始めた。

月日が流れ、現代に至り、ホウリス国におけるウサギとカメの人口比率は等しくなったが、植民地時代に迫害を受けていたカメは、相変わらず貧しい暮らしを送っており、豊かな暮らしを送っているウサギとの経済格差が、ホウリス国で大きな社会問題となっている。

そのような中、現在、在学生の80%以上がウサギであるトドウ大学は、来年度の入試から「入学定員の50%をカメ枠とする」という方針を発表した。

問1 【個人ワーク】 トドウ大学のカメ枠の導入は公正だろうか。

公正だ · 公正ではない

【理由】

問2 【個人ワーク】 なぜ、トドウ大学はカメ枠を導入したのか、【資料】を基に、トドウ大学の立場から考えよう。

【理由】



ワークシート2



年 組 番 氏名 _____

問3 トドウ大学は、カメ枠の導入理由を「植民地時代から続く種族間の格差をなくすため、一定期間に限って実施する予定である」と発表した。

①【個人ワーク】(1)～(3)について考えよう。

(1) トドウ大学が達成しようとしている目的(種族間格差の解消)は合理的だろうか。

<input type="checkbox"/> 合理的だ · <input type="checkbox"/> 合理的ではない。
【理由】

(2) カメ枠の導入は、その目的を達成するための手段として合理的だろうか。

<input type="checkbox"/> 合理的だ · <input type="checkbox"/> 合理的ではない。
【理由】

(3) 以上の検討を踏まえ、カメ枠の導入が公正な提案といえるかどうか、もう一度考えよう。

<input type="checkbox"/> 公正だ · <input type="checkbox"/> 公正ではない。
【理由】

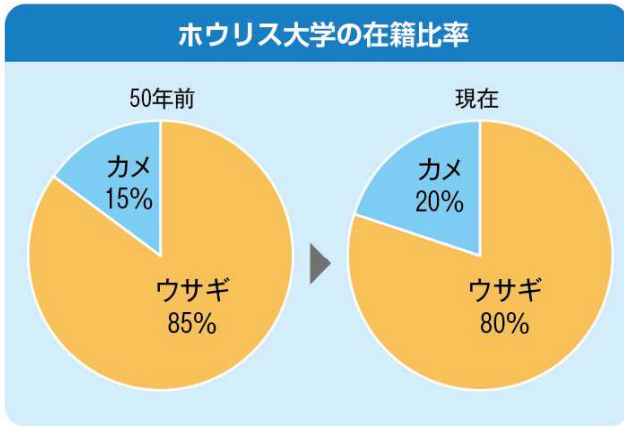
②【グループワーク】グループで意見交換をしよう。

賛成派	反対派
【理由】	【理由】

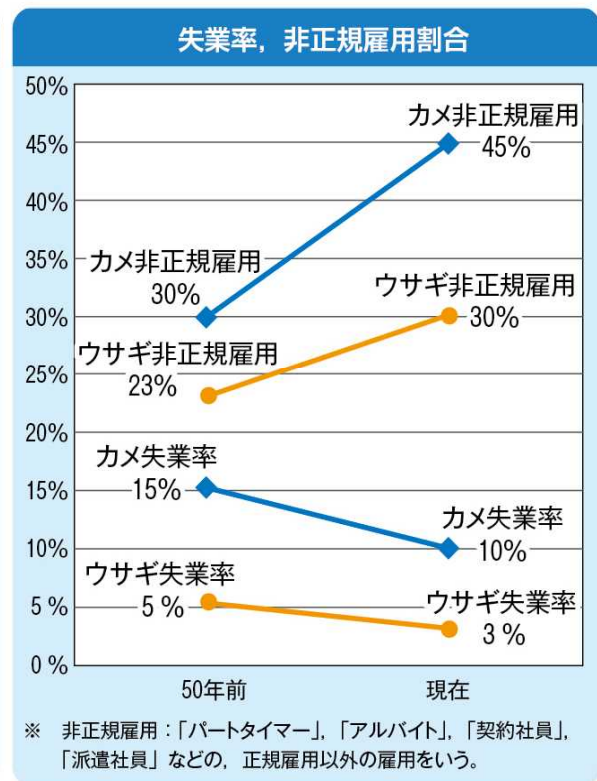
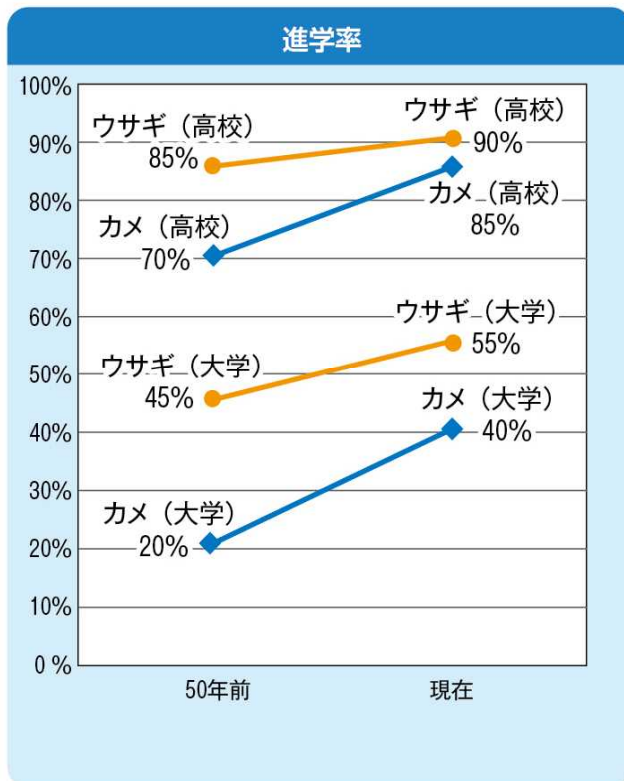
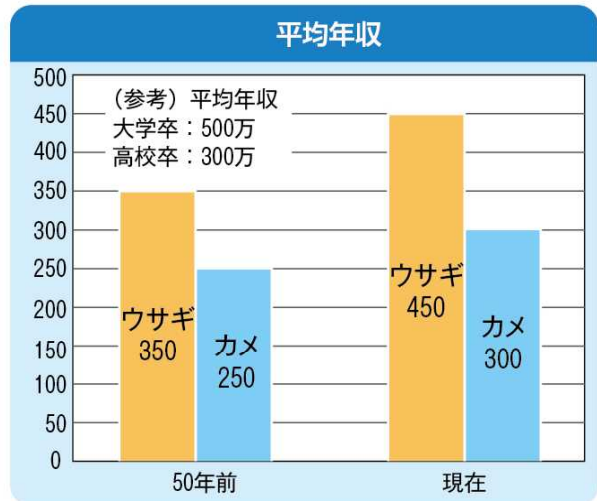
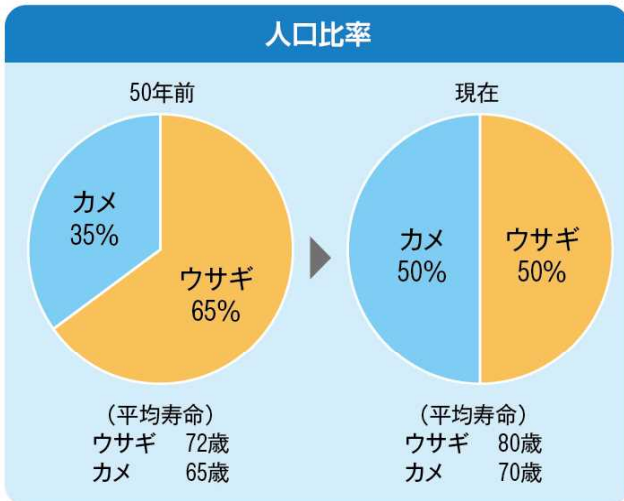
③【グループワーク】グループワークを踏まえ、あなたが公正だと考える提案を考えよう。

【公正だと考える提案】

資料



法教育マスコットキャラクター「ホウリス君」





参考資料 平等についての考え方

【参考①】 異なった取扱いを認めてよいか

絶対的平等	現実に存在している違いを考慮せず、異なった取扱いは一切認めるべきではないという考え方
相対的平等	現実に存在している違いを考慮に入れた取扱いを認めるべきとする考え方 合理的な区別は許容されるが、不合理な差別は禁止される

【参考②】 アファーマティブ・アクション

社会的・構造的な差別によって不利益を被ってきた人々に対して、一定の範囲で特別の機会を提供するなど、実質的な機会均等を実現するために講じる暫定的な優遇措置のこと



法教育マスコットキャラクター
「ハウリス君」